

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 教師教育開発センター

	組織目標	達成状況(成果)
教 育	<p>1. 全学教職コア・カリキュラムの構築 全学教職コアカリキュラムを構築し、課程認定学部における教員養成の質を保証する。22年度は、入門科目である「教職論」と、教育実習の事前事後指導である「実習基礎研究」の充実を図る。</p> <p>2. 教職支援・教職相談の充実 教採情報提供・教師力養成講座開講・教職相談室開設活動等全学の教職を目指す学生を対象とした幅広い教職支援活動を実施する。</p>	<p>●全学の教職課程運営委員会のもと、教師教育開発センターを実施主体とすることで、教育行政・学校現場と連携した総合大学における教員養成の体制を構築している。具体的には教員養成の質を高めるために「全学教職コア・カリキュラム」を開発し、学生の学びを「教職実践ポートフォリオ」に記録して評価することで、教育実践力を身に付けた教員を養成するシステムを構築した。</p> <p>●本年度は、1年次の「教職オリエンテーション」、「母校訪問」の実施、3年次「教育実習基礎研究」の改善等コア科目の整備と、教職実践演習の履修カルテとしても活用する「教職実践ポートフォリオ」を活用した教職課程の教育改善を推進している。さらに、教職実践ポートフォリオのWeb化や、「教職論」の教科書の作成(平成23年4月刊行)、課程認定8学部全学教職課程FD研修を実施する等、教員養成の質を高める諸事業を進めた。</p> <p>●教職を志す学生を支援するためには、教職相談室による教員採用試験に対する指導や、最新の教育課題について学ぶ「教師力養成講座」を実施し、全学から約4500名(平成22年度:延べ数)の学生が指導を受けた。</p> <p>●平成23年3月岡山大学の教員養成教育が全国のモデルとして評価され、文部科学省国立教育政策研究所教員養成の改善に関する調査研究会の訪問調査を受けた。</p>
	達成度: ④ 3 2 1	
研 究	<p>1. 全学教職コア・カリキュラムの開発・充実 質の高い教員養成に向けて、全学教職コア・カリキュラムを充実させるための開発・研究を行う。</p>	<p>●全学教職課程のディプロマポリシーに基づき平成22年度入学生から必修化される教職実践演習に対応するため、教育学部以外の学部学生のための「全学教職課程(中学校・高等学校教諭版)教職実践ポートフォリオ」の開発について、全学教職課程運営委員会等において関係学部からの委員と連携して検討を進め、6月に作成した。このポートフォリオの開発により、学部の垣根を越えた教員養成の質保証の体制が一層整備された。</p> <p>●このポートフォリオ等は、教職実践演習の到達目標を達成するために、中教審答申に準拠して、岡山大学独自の教育実践力を構成する4つの力とその下位の4項目ごとに、岡山大学における1年次から4年次の教育実習前後の目標到達の確認指標を提示した履修カルテ例として、文部科学省初等中等教育局教職員課から全国の課程認定大学にメール配信され高い評価をえた。</p> <p>●ポートフォリオおよび教師育成プログラムの開発に関する成果は、日本教育大学協会研究集会において、計3題の研究発表を行った。</p>
	達成度: ④ 3 2 1	
セ ン タ ー 業 務	<p>1. 教師教育開発センターの設置 全学教職コア・カリキュラムの構築、組織的指導体制の確立等教職課程の改善・充実を目的に教育学部附属教育実践総合センターを組織再編し、全学教師教育開発センターを設置する。</p>	<p>●教育学部附属教育実践総合センターを組織再編し、4月より全学センターとして教師教育開発センターを設置した。4月22日には、岡山大学長、文部科学省高等教育局長、岡山県教育長、岡山市教育長等の出席をいただき開所式を挙行了。また、高等教育局長による記念講演、「これからの教員養成と岡山大学への期待」を行った。</p> <p>●全学の教職課程を担う機関である「岡山大学教師教育開発センター」を創設した。教師教育開発センターは、教師教育開発部門、教職支援部門、教職コラボレーション部門の3部門でスタートし、平成22年8月には、地域の理数教育において中核的な役割を担う教員の養成を担う部門として理数系教員養成事業部門を設置して4部門とした。また、センター内に設置された各部門の施設整備を行い、教育学部のみならず他学部学生からも利用しやすい環境を整備した。</p> <p>●本年度、中国地区で初めて採択された理数系教員養成拠点構築事業については、来年度より開始する第一期正規生の選抜を行い、養成プログラムを試行するなど、順調に進めている。</p> <p>●平成23年度特別経費として要請していた「教員の資質向上に寄与する「大学と学校・教育委員会の協働」の実現」について、設備費が本年度補正予算で措置されたため、センター(東山ランチ)の改修工事を行い、同プロジェクトの実施に向けた施設整備を行った。さらに、平成23年度特別経費の内示を受け、来年度からの事業実施に向けて、準備を進めている。</p>
	達成度: ④ 3 2 1	
社 会 貢 献	<p>1. 教育委員会・学校教育現場等との連携協力 ボランティアビューローを中心に教育委員会・学校教育現場等と連携協力し、学校支援ボランティアや教職実践インターンシップなどの活動を行う。</p>	<p>●「スクールボランティアビューロー」では、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会をはじめとする地域の教育委員会等の教育行政および地域の学校・園と連携することにより、学校支援ボランティアやインターンシップ事業を一元的に管理できるようにした。学校支援ボランティア証の発行、学校支援ボランティアの単位化を実施した。</p> <p>●岡山県教育委員会との連携協力事業である「教師への道」インターンシップ事業および岡山市教育委員会との連携事業である「学校支援ボランティア事業」に、約500名の学生が登録し、その多くが学校現場等で活動・実践している。この事業は学校現場のニーズに応えるとともに、学生にとっては現場での実践力を養う場にもなり、双方にとって有効に機能している。</p> <p>●CSTプログラムについて、岡山県教委・岡山市教委・倉敷市教委との連携事業を推進した。</p>
	達成度: ④ 3 2 1	

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。

教師教育開発センターの設置、全学教職課程の構築、履修カルテとしての教職実践ポートフォリオの開発と活用は、総合大学における教員養成教育のモデルとして、文部科学省、国立教育政策研究所をはじめとして全国的に注目され高く評価されている。さらに平成22年度理数系教員養成拠点事業への採択ならびに平成23年度特別経費が認められる等先進的取組として発展している。平成23年度以降は、各事業の具体化を一層推進するとともに、学校・教育行政との協働拠点を形成し学校改善に取り組む体制整備を行う予定である。

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。